

福島第一原子力発電所構内の作業等で使用する各装備品 (防護装備) の取扱いについて

< 参 考 資 料 >
2 0 2 0 年 2 月 1 7 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

- 新型コロナウイルスの影響で、国内外でマスクや防護装備の需要が高まっている中、福島第一原子力の廃炉作業で使用している物資（防護装備を含む）については、現時点で必要量を確保しております。
- 今後、製造業全般における「サプライチェーン」の課題長期化が想定される中でも、福島第一原子力発電所の廃炉作業に万全を期すべく、防護装備の安定的な確保に向けて、調達先の拡大などの必要な対応を随時実施しており、加えて、作業員の安全性確保を大前提に、各装備品（防護装備）の柔軟な取扱いなどの対応を実施してまいります。
- 各装備品（防護装備）の柔軟な取扱いについては、本日（2月17日）、以下のとおり協力企業に周知し、明日（2月18日）より運用を開始します。

装備	取扱い内容
透湿性防水スーツ	無くなり次第レインスーツを使用
構内専用服（G服）	配備しない（原則としている一般作業服のみ）
チョッキ	クールベストの使用を依頼するとともに回収したチョッキは再使用

放射線防護装備の取扱い詳細

透湿性防水スーツ

- ▶ 代替品としてポリ塩化ビニル製レインスーツを使用する



透湿性防水スーツ



(レインスーツのイメージ)

放射線防護装備の取扱い詳細

構内専用服（G服）

- 現状の運用ルールでは、Gゾーン作業での着衣は一般作業服を原則としつつ、「軽微な作業以外を行う場合は構内専用服も可能」としているが、今後は一般作業服に限定

(参考) 放射線管理仕様書

Green zone：着衣 一般作業服・構内専用服（※）

※正門警備や汚染のない物品の運搬・搬出入作業、パトロール等の軽微な作業以外を行う場合は、構内専用服も可能。

- 一般作業服で作業する場合はインナー（下着）の着用も不要

	現状	柔軟な取扱い	
		(2/18~)	(3月以降予定)
Gゾーン	 <p>一般作業服 ただし構内専用服でも可</p>	 <p>一般作業服 (+個人下着)のみ</p>	 <p>一般作業服 (+個人下着)のみ</p>
Yゾーン	 <p>カバーオール</p>	 <p>カバーオール</p>	 <p>構内専用服を使用</p>

放射線防護装備の取扱い詳細

チョッキ

- 胸ポケットがついているクールベストを所持している場合は、チョッキの代わりにクールベストを使用（再使用）
- 当社配備のチョッキは、現状は退出モニタ通過後に全て廃棄しているが、再使用可能なものは使用



(クールベスト)



(当社配備チョッキ)

カバーオール（Y服）について

カバーオール（Y服）

- Yゾーン、Rゾーン作業で使用するカバーオールについては継続して確保できる見通し。
 - ・ 2月末頃までは、現状使用しているカバーオール
 - ・ 3月末頃までは、構内専用服（G服）を使用
 - ・ 4月末頃までは、国内各社の不織布カバーオールやナイロン等他素材同等品を確保済み
 - ・ 5月以降は、不織布カバーオールやナイロン等他素材同等品の必要数量の生産・納入を確保済み
- 福島第一原子力発電所では個人線量計（APD）を視認するための透明な窓が胸にあるカバーオールを使用しているが、4月以降、透明な窓が胸にないカバーオールを使用することもある。